

准フォレストスター等研修の 実施状況

「森林技術センター」岐阜県下呂市の森林技術センターを実施拠点に、七月四日に開講した准フォレストスター研修と林道専用道技術者研修は、八月十日に前半のカリキュラムを終了し閉講しました。

准フォレストスター研修は、全国に先駆けて実施し、地元岐阜県をはじめ遠くは京都府、一府八県の県職員と国有林の流域管理調整官等、総勢八十二名が受講しました。

研修では、森林・林業再生プランの概要や准フォレストスターの役割、市町村森林整備計画の講義等に加え、森林施業の実行監理、ゾーニングと森林施業の考え方やグループによる演習を行い、准フォレストスターとしての知識・知見などの習得を図ったところです。

また、七月十一日に開講した林業専用道技術者研修は、中部局管内四県の他、石川県、福井県、三重県の県・市町村職員、コンサル会社社員などに国有林の森林土木技術者等、総勢六十五名が受講し、林業専用道作設計針や設計のポイントなどの講義と、既設林道を題材に設計・施工時の留意点等の現地研修を通じて、今後の路網整備について理解を深めました。

講義、演習では、林野庁職員の内部講師のみならず、各カリキュラムに応じて

学識経験者、有識者等の外部講師からも指導・助言を受け、受講生からは、地域の森林づくりに広い視野を持つて取り組んでいきたい等の声が聞かれたところです。

後半の研修は、九月二十六日から准フォレストスター研修の二週目が、十月三日から林業専用道技術者研修の三週目がそれぞれ開講され、十一月十一日に今年度の准フォレストスター等研修は全て閉講する予定です。

● 研修の経過

◎ 准フォレストスター研修の実施状況

一 開講式

岐阜県立森林文化アカデミー学長、下呂市長ほか多数の来賓を迎え開講式を開



開講記念式典での来賓挨拶

催。

城土局長からは森林・林業の再生に向けた一連の動きを踏まえ、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行う「准フォレストスター」への期待と激励の挨拶。

二 オリエンテーション

中部ブロック研修のプロセスマネージャー伊藤栄一氏（森のなりわい研究所代表）の進行による研修生へのオリエンテーションを実施。

研修生の緊張を和らげるため、一週目②研修からは簡単な自己紹介を取り入れる。



オリエンテーションの様子

三 講義

①森林・林業再生プランの概要、准フォレストスターの役割

林野庁内部講師から森林・林業再生プランの概要及び准フォレストスターの役割について講義。

日本型フォレストスターは広域的、長期的な視野を持つて地域の森林経営のビジョンを描き、中立的な立場で地域の関係者を指導する、地域の森林・林業の牽引者など。（森林施業プランナーは事業体の立場で事業計画、施業提案を作成。）



講義の様子（研修生から質問も活発に）



② 森林施業の集約化（提案型集約化施業）

外部講師の岐阜県森林組合連合会 三島喜八郎副会長から森林施業の集約化について、事例を交えての講義。

③ 路網と作業システム

外部講師の京都大学 長谷川尚史教授及び名古屋大学 山田谷三准教授から路網と作業システムについて講義。



外部講師（写真右：京都大学の長谷川准教授、左：名古屋大学の山田准教授）

④ 森林施業の実行監理演習（仮想集約化施業演習）

林野庁内部講師及び中部局内部講師から森林施業の実行監理演習の目的等を説明。森林施業プランナーに対し支援、指導・助言する際の視点等を養う。

間伐生産性・コスト分析シートを作成し、年間必要事業量、コスト計算の基礎等を理解する。

地形・地質等を踏まえた、丈夫で簡易な、間伐に使いやすい道づくりについての理解を深める。



分析シート作成(右)、よりベターな路網配置(左)



⑤ 市町村森林整備計画演習（ゾーニング）

林野庁内部講師及び中部局内部講師から市町村森林整備計画演習（ゾーニング）の目的、進め方及び演習地の概要等を説明。地域の自然的、社会的条件を背景として、発揮が期待される機能に応じた森づくりについて検討する手順、ポイントを習得。演習エリア内のゾーニングを行う。



グループ毎のゾーニング作業の様子（右）、発表の様子（左）



四 現地演習

① 仮想集約化団地の現地演習

研修二日目に各グループが机上で検討した森林作業道等の線形を現地において確認。

現地踏査結果を踏まえ、各グループがベターと考える森林作業道等の線形などを発表。



グループに分かれ現地踏査（右）、発表の様子（左）





グループ検討の様子 (右)、発表後の助言・コメントの様子 (左)

②森林施業検討会
 実際の施業地において、森林簿、施業履歴、地形図等の森林情報から、将来の森林の姿（目標林型）、現状の森林からの誘導方法（施業方法）について各グループで検討し発表。
 外部講師の信州大学 植木達人教授から専門的な見地から助言・コメントを受ける。



講義の様子 (右)、研修生の質問の様子 (左)

◎林業専用道技術者研修実施状況
 一 講義
 ①林業専用道作設指針等の概要
 林野庁内部講師から森林・林業再生プランの概要及び林業専用道作設指針等の概要について講義。

③現地研修の準備
 外部講師の(株)中部森林技術コンサルティング 植田洋二参与から二日目に行う現地研修当該箇所の概要説明及び当該箇所の図面に林業専用道の線形を机上で検討する講義。
 各グループに分かれ検討した線形を図面に。



当局の内部講師より講義

②森林施業、作業システムに関する基礎知識と配慮すべき留意点
 中部局内部講師から林業専用道の設計・開設における留意点（森林整備事業との関係）について講義。



グループ検討の様子



外部講師の植田さんの講義

④今後の活動に向けたディスカッション
 林業専用道技術者研修を受講して理解
 できた事項、調査設計又は施工において
 発注者として留意する点など、講師、研
 修生間で意見交換等を行う。



講師と研修生がディスカッション



検討結果の発表の様子



線形について現地踏査



調査設計の留意点、ポイントを説明

二 現地研修

① 検討線形の現地踏査

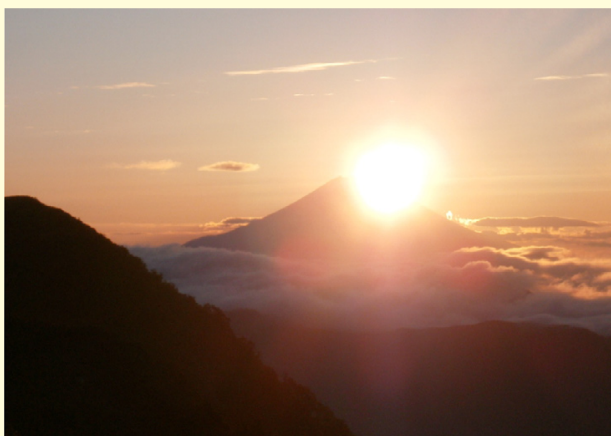
一日目に各グループが検討した線形に
 ついて現地踏査により確認。
 踏査結果を踏まえグループ内で再検討
 した内容の発表、意見交換。

② 林業専用道の調査設計等

外部講師の(株)中部森林技術コンサルタ
 ツ 平沢唯司技術課長から既設林道を用
 いて林業専用道の調査設計における留
 意点、ポイントなどを説明。
 研修生は調査設計又は施工における留
 意点等について発表、意見交換。



留意点などの発表の様子



光小屋稜線より富士を望む

ふう けい き こう
風景紀行
遠山郷
77
南信森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

南アルプス南部の登山口「遠山郷」

長野県飯田市上村・南信濃地区を総称して遠山郷と呼ばれています。遠山郷は、南アルプス（赤石山脈）の南部西側に中央構造線に沿って遠山川が南下し、南アルプスの登山口であるとともに、遠

山の霜月祭りに代表される歴史を有した町です。飯田市街地から東に向かい車で約一時間程の位置にあります。

◆南アルプス南部の登山口

南アルプス最南の三、〇〇〇峰の聖岳（標高三、〇二二メートル）とハイマツ群生の日本最南端の地を望む光岳（標高二、五九一メートル）の百名山への長野県側の登山口にあたり、南から鶏冠山、池口岳、加々森山、光岳、イザルガ岳、易老岳、仁田岳、茶臼岳、上河内岳、聖岳、兎岳、大澤岳そして赤石岳へ続く尾根は大自然のまっただ中にあり、朝日が富士山より昇る季節はご来光を仰ぎいただく峰々がそこにあります。しかし、落石を繰り返す林道と登山口より尾根まで五時間を超える急登が待っており、体力がかなり必要なことから、中級以上の登山者にお勧めのルートとなっております。

◆遠山の霜月祭り

(国重要無形民俗文化財)

十二月に入ると順次、遠山郷各地区の神社において、日本国中の神々を呼び集めて、各神社には湯釜が置かれ、数時間にわたり古くから伝わる数々の面を拝した舞がつぎ、大きな釜は熱湯をたぎらせ、クライマックスには舞いながら素手で熱湯をまくといった湯立神楽を奉納する霜月祭りは、山深いこの里の厳しい自然の中に息づいた素朴な信仰とエネルギー

ギーを今に伝えていきます。

◆下栗の里（ふるさと百選）

国道一五二号線から車で約二十分ほど登ると山の斜面に上村「下栗」という集落があります。平らな部分は各家々の敷地で畑は平らなものを探すことはほとんどできません。集落の中をつづら折りに通る道は当然大型車は通行困難な狭隘なものとなっております。この下り坂を初めて運転する時は曲がり道で道の先が見えず足の震えを覚えることでしょう。春は新緑の芽吹きと山桜が谷から登り、秋には紅葉がアルプスの尾根から下る遠山谷の風景を一望できます。童話作家椋鳩十氏はこの遠山谷からいくつもの童話を誕生させています。



耕して天に至る下栗の里集落

この地域の国有林野は南アルプスを主体に管理し森林生態系保護地域など各種保護林のみならず、地元の方々と共に後世に残す努力を行っています。

◆アクセス

(下栗の里所在地)

長野県飯田市上村

○車でお越しの場合

中央自動車道飯田ICから矢筈トンネル経由で七十五分。

○公共交通機関を利用の場合

JR 飯田駅から路線バス遠山郷線で六十分、上町バス停下車、バス停からタクシーで十五分。



霜月祭「湯立ての神事」